

9. Dynabook株式会社 アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」

企業名	Dynabook株式会社
機器・サービス名	アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」
問合せ先	Dynabook株式会社 国内PC事業本部 公共・文教営業部 TEL:03-5144-3110 お問い合わせページ: https://dynabook.com/business/contact.html
機器・サービスの概要	Dynabookが目指した誰一人取り残さない教育環境 教育の現場では児童・生徒の、一人ひとりの特性に合わせた設定変更が可能な「せっていのとびら」
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 「せっていのとびら」はdynabook のパソコンをお客様がより快適にご利用いただけるよう支援するソフトウェアです。Windows に搭載されているアクセシビリティ設定機能へ、かんたんにアクセスすることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 「せっていのとびら」は、障がいがある方々が自身の状況や程度に応じて使いやすいように設計されています。例えば、文字の大きさやコントラストの調整、音声読み上げ機能などです。 ● ご使用者様自身のニーズに合わせた設定を簡単に行うことができ、よりアクセシブルに学ぶことができます。 ● ご利用方法を解説する説明書とYouTube動画をご提供しています。 学校現場で先生方が説明に使用できる資料、また、児童・生徒が自分で理解、操作にチャレンジできる動画です。下記URLをご参照ください。 https://dynabook.com/solution/dynaschool/gigaschool/windows-solution/accessibility.html

「せっていのとびら」のアクセシビリティ機能

GIGA スクール構想では、パソコンの利用に不便を感じている子供もいます。

たとえば、色の違いを認識しづらい子供、小さな文字が見えにくい子供、

音声サポートが必要な子供など、それぞれが異なる学びのサポートが必要です。



「せっていのとびら」は、色覚特性に対応するカラーフィルターの設定や、文字の大きさの変更、画面の明るさ調整、読みあげ機能などを、直感的なインターフェースで簡単に操作できるように設計されています。

これらの設定はもとも Windows の設定メニューから調整できます。しかし、この操作が複雑でわかりにくいと感じる子供も少なくはありません。

「せっていのとびら」を利用すれば、この機能にかんたんにアクセスでき、子供たちが自分で自分に合った設定に変更することができます。

■YouTube動画ご紹介

①アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」



https://www.youtube.com/watch?v=kBoai_dkVC8

②GIGAスクール導入事例「島根県益田市教育委員会様」



https://www.youtube.com/watch?v=MPNd_XJDoSk

※YouTubeで動画を視聴する際、字幕機能を[ON]にすると、内容を理解しやすくなるかと思います。日本語以外の言語にも対応しています。ぜひお試しください。

当事者ニーズを 踏まえた開発

2015年12月から2017年3月にかけて、総務省主導で東京学芸大学と連携し、過疎化が進む中山間地域である島根県益田市において、教育ICTの導入モデル構築の実証研究を行いました。この研究では、「学校」「地域(公営塾)」「家庭」の学習環境を整え、いつでもどこでも学べる環境を実証しました。その後も益田市と協働研究を続け、全国に先駆けて1人1台端末の実証研究を進めてまいりました。

2023年に益田市立鎌手小学校での授業参観に同席した際、岡本教諭から「色の判別が難しい児童がいる」と相談を受けました。Windows 11のアクセシビリティ機能を活用し、色弱の児童にも対応できる学習環境を整えるため、PCメーカーとして取り組みを開始しました。日本マイクロソフト(株)と連携し、岡本教諭のアドバイスも受けながら、「せっていのとびら」アプリを開発し、健常者や色覚弱者、聴覚弱者など誰でも使えるようにデザインを工夫しました。例えば、「字幕」は「字まく」と表記し、低学年でも理解しやすいように工夫されています。

このアプリは、視覚と聴覚にハンディキャップのある児童だけでなく、いじめに繋がらないように文字の大きさなど、他の機能も変更できるように設計されています。これにより、すべての児童が平等に学びを楽しむことができる環境を目指しています。

企業としての 組織的な取組

「コンピューティングとサービスを通じて世界を変える」

(dynabook as a Computing × dynabook as a Service)

当社は、2019年に社名変更と共に、新しいビジョン「コンピューティングとサービスを通じて世界を変える」を制定しました。具体的には、“ハードウェア(dynabook as a Computing)とサービス(dynabook as a Service)の融合”と、それを支えるテクノロジーの強化、事業のグローバル展開を新方針として、「人に寄り添う、社会を支える、真のコンピューティング」と「ユーザーを起点に考えた新しい付加価値・サービス」を追求してまいります。これらを通じて、より快適な社会と生活の提案を行うことを、私達の次なる挑戦として取り組んでまいります。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 当事者意識の無い困難さを抱えた人にも自然にその便利さに気づかせるような仕組みを考えており、すべての人を包括した開発となっている。
- ・ Windowsのアクセシビリティ設定の「階層が深く、探しにくい」という課題を解決しようと努力した製品である。
- ・ 学童期からアクセシビリティ機能の有用性に気づくことにつながる。1人だけ特別ではなく、全員が自分に合わせて設定できるという点などが評価できる。すべての人がアクセシビリティという考えに触れる扉を開いている。
- ・ GIGAスクール構想をさらに学校現場に定着・浸透させていく可能性を押し広げる、前例のない取組モデルを提供している。デジタル教科書との連動についても課題はあるが、希望を抱かせてくれる取組である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 複雑な階層となっていて分かりにくいアクセシビリティ設定について、簡単に操作できることで年齢層に関係なく使いやすいPC環境を得られる。
- ・ 設定画面が直感的にわかりやすく文字やアイコンも大きく誰でも操作しやすい。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 自ら学校に赴いて子ども目線で現場調査を行ったり、学校教員へのインタビューによって子どもたちの潜在的なニーズを掘り起こしたりし、それらをすぐに実現させようと開発に取り組んでいる。

3 企業としての取組について、優れている点

- OSのアクセシビリティ機能を開発しているマイクロソフトと連携している。また、医療型障害モデルを超えて、社会モデルで障害をとらえ先進的な意識で取組を行っている。
- 全社挙げて、開発する製品をすべての人が使えるようにと意識した取組がなされている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 現在はDynabook製品に限定されているが、他の製品や幅広いユーザー(高齢者やPC初心者など)にも利用できるようにすることを期待する。
- 子どもたちの成長や使い方の変化に応じて、設定を変更するよう促す機能を期待する。
- より良くするため、子どもたち(当事者)からのフィードバックを取り入れることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 文部科学省が求める基本的なアクセシビリティ要件に対応しているが、色覚異常、読字障害などへの対応を期待する。
- 聞こえない人にとっては、音声による操作や通知があること自体、気づくことができない。一部利用できない機能や情報があるとのことだが、聞こえない人にとっては大きな問題となるので、改善を期待する。
- 動画の字幕はYouTube自動字幕はあるとのことだが、誤変換が予想されるので、より正確な字幕表出を期待する。
- 手話を使う、あるいは日本語を学んでいる最中の子どもたち(聴覚障害のある子どもだけでなく外国人児童も含む)もアクセスできるよう、見る、聞くだけでなく、言語面でのアクセシビリティも期待する。

4

当事者にとって重要であるが、**今後更なる配慮が期待される点**(今後期待したい点)

(続き)

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- 多くの児童・生徒・教員に知っていただき。その上で、どの程度このソフトウェアが利用されているのか、量的・質的な評価を行い、それを基にした普及を期待する。
- PC初心者にも有用なものと考えられるため、PC訓練を行なっている機関との連携も期待する。
- すべての音情報を可視化する難しさはあるかもしれないが、当事者(1人ではなく複数人)の意見を聞き、共に協働しながら開発できる事を期待する。